

ミュージアム・アイズ

MUSEUM EYES

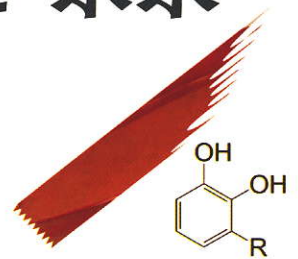
Vol. 56
2011

Mm
MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

特集 明治大学創立130周年記念博物館特別展

漆器 JAPANWARE

文理融合型研究から見えてきた
漆の過去・現在・未来



- 博物館ニュース
 - 企画展「古瓦を追ってー前場幸治瓦コレクションー」
 - 展示&リサーチ
 - 市民レクチャー
 - 学芸研究室から
 - 収集室から
 - 南山大学協定通信・図書室から
 - 入館者数の動き・団体見学の記録・M2カタログ
 - 博物館友の会から
- 小塚原の仕置場と志士の墓
玉里舟塚古墳出土馬形埴輪の評価
アラスカ学術調査団関連資料
目で見て楽しむ 江戸の洒落っ気
工芸の会ー漆工芸「乾漆」に挑む

彩色浅鉢形土器(縄文時代)高崎市教育委員会蔵
黒漆草花文漆絵椀(江戸時代)当館蔵
朱漆花文堆起漆供物器(19~20C・ミャンマー)浦添市美術館蔵
輪島塗金時絵屠蘇器揃(20C末)当館蔵

漆器

JAPANWARE



文理融合型研究から見えてきた 漆の過去・現在・未来

会期 2011年6月18日(土)~7月31日(日)

空気に触れると時間をかけて固化する神秘の樹液 —— 漆(うるし)。

その性質を利用し、塗料として、あるいは塑形材、接着剤として活用することにより、我々の祖先は絢爛たる金蒔絵や螺鈿らでんに象徴される輝かしい漆文化を作り上げてきました。

漆器の歴史は古く縄文時代にさかのぼり、現在もなおその伝統技法は近代機械工業との軋轢を経て生活実用品の中にも脈々と受け継がれていますが、将来に向け、特殊なジャンルの商品としてしまうのではなく、その存在意義を現実社会の中にどう位置付けてゆくのか、工業製品としていかに普及されるべきかが課題となっています。

この展覧会では、明治大学が取り組む漆関係の研究—「縄文時代の漆文化」「現代商品としての漆器」「次世代高機能材料としての漆」、そして、大学創立130周年記念事業の共通コンセプト「世界へ」をテーマに、我が国の漆文化を再考する機会をご提供します。

神秘の物質を科学する —漆の科学分析—

知っているようで知らなかった。漆の意外な素顔が神秘のベールをぬぎます。最初に“漆”とは一体どのような物質なのかを問います。

“乾く”と言われる漆ですが、実は、湿った空気にさらすとよく固化し、いったん固まると器物の耐水性、耐久性を高め、顔料を添加して色を表現したり、装飾用の素材を器面に接着することもできます。ここでは、科学分析によって明らかになった漆の成分、固化のメカニズムを明らかにします。



漆の固化に関する実験

関連企画 明治大学リバティアカデミー講座

■オープン講座「漆文化のはじまりと広がり」 2011年7月2日(土)13:00~17:00

漆とは何か？(宮腰哲雄・理工学部応用化学科教授)／縄文時代の漆文化(阿部芳郎・文学部史学地理学科教授)／アジアの漆文化(宮里正子・沖縄県立芸術大学、沖縄国際大学非常勤講師)／科学の目から見る“漆”の世界(本多貴之・理工学部兼任講師)

●会場 リバティタワー-B1F 1001教室

※どなたでも受講できます 受講料¥1000 リバティアカデミー会員は無料 (事前申し込みが必要です 右記リバティアカデミー事務局までお申し込み下さい)

人はなぜ漆を使うのか？ —縄文時代の漆文化—

人が漆を利用し始めた初期の形態を探ってみることにします。漆利用は年代的にも古く遡り、約9000年前という説があります。ここの着眼点としては、漆を塗るもの、塗らないものの対比、赤い色を着けること、赤と黒で絵柄を表現すること、光沢のある器面を表現すること、祭祀に関わるあるいは呪術的な意味をもつのか、実用としての機能性を求めて塗られたのか？当時の漆芸技術を示す貴重な遺物も展示します。



竹を編んだ籃胎に漆を塗っている
(川口市遺跡調査会蔵)



木胎漆器の口縁の一部
(北区飛鳥山博物館蔵)



漆を入れていた土器
(桶川市教育委員会蔵)

歴史の中の漆器

その後、我が国の漆芸技術は飛躍的な進歩を見せます。ここでは、古代～近世における漆器利用と、ヨーロッパ人による高い評価があったことなどを概観します。貴族や武家による高級調度の利用、寺院や城郭建築における建材としての需要、庶民も含めて広汎に使用された汁椀等の実用品など。

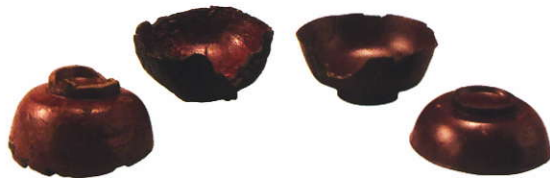
Japan wareとしてヨーロッパ世界に名の通った日本漆芸を象徴的に提示します。



秀吉の大坂城に用いられた金箔瓦



17～18世紀の琉球漆器
中国皇帝へ進貢されていたもの
(浦添市美術館蔵)



旗本屋敷跡から発掘された椀

アジアに広がる漆文化

漆の文化をもつのは日本だけではありません。漆器はアジアに共通の文化です。中国、朝鮮半島、沖縄（琉球）、ベトナム、タイ、ラオス、ミャンマーと、各国・地域ごとにその生活文化を背景としたさまざまな漆器が作られ、使われてきました。ここでは、遙か海を越えてやって来た、アジア各地の特色を反映した個性的な漆器を一堂に展示します。



金箔が鮮やかなタイの漆器
(浦添市美術館蔵)

■漆アカデミー「漆を知り、使って楽しむ」

2011年6～7月の土曜日 15:00～16:30 全6講

- 6/11 漆の魅力(宮腰哲雄・理工学部応用化学科教授)
- 6/18 漆の年代と産地(吉田邦夫・東京大学総合研究博物館准教授)
- 6/25 江戸の漆器椀(追川吉生・文学部兼任講師)
- 7/9 暮らしの器をプロデュースする(桐本泰一・輪島キリモト代表補佐)
- 7/16 漆の弱点を考える(神谷嘉美・東京都立産業技術研究センター研究員)
- 7/23 漆器製品の見方・買い方(外山 徹・博物館学芸員)

※受講には明治大学リバティアカデミーへの入会が必要となります 受講料15,000円

問合先 明治大学リバティアカデミー事務局 03-3296-4423 <http://academy.meiji.jp>
「リバティアカデミー総合案内」配布中 [リバティアカデミーでは多彩な講座を開講しています](#)

今われわれは？ —漆器の現在—

あなたは漆器を使っていますか？ 我々は今、生活の中でどのように漆器と関係を取り結んでいるのでしょうか？ 高度成長期には一般家庭でも購入されるようになった様々な漆器、正月用品に象徴されるハレの器、戦後における合成漆器の開発と生産、伝統漆器が身近ではなくなった中においてもそのデザインが影響を及ぼし

ている点、「ホンモノの漆器を普段使いに」をアピール

し、漆の質感にこだわった近年の商品開発までを取り上げます。



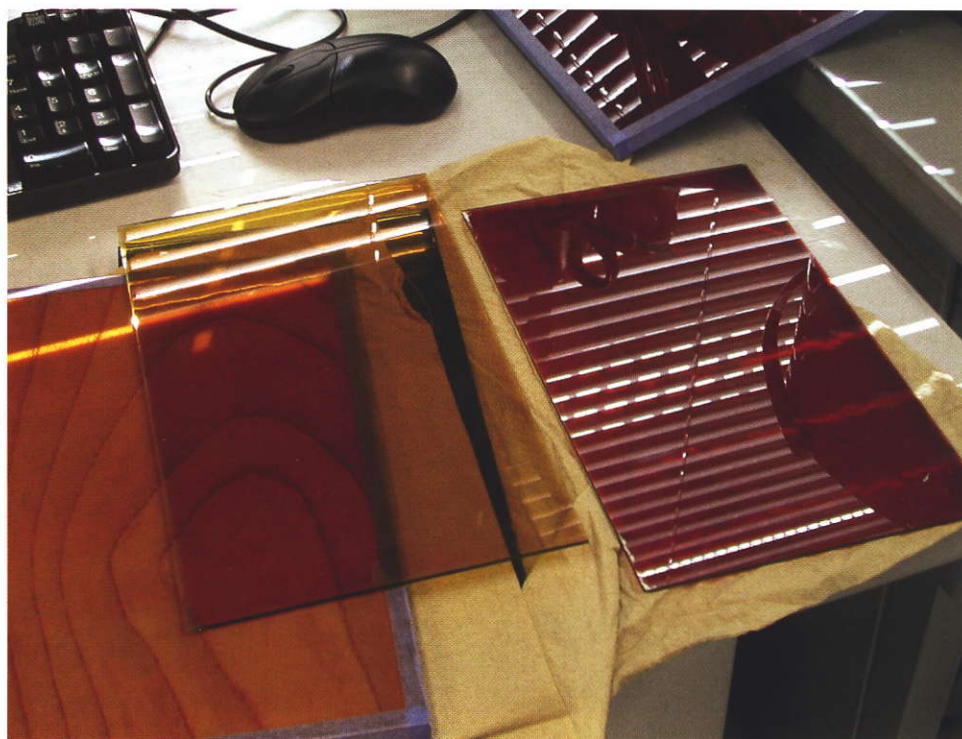
ホンモノの漆の質感にこだわった
輪島キリモト社の製品



高度経済成長の頃の漆器製品

漆利用の可能性を拓く —次世代高機能材料としての漆開発—

合成漆器普及の背景には伝統的な漆芸技法が量産・普及に対応できないという理由がありました。問題は、固化に時間を要する、美しい艶を出すためには手間ひまかけた研磨や高度な塗り技法が求められること、作業工程の機械化ができない、といった点でした。そこで、これらの課題をクリアすべく開発された、有機ケイ素化合物の添加によるハイブリッド漆、漆の粒子を小さくして使用性を高めたナノ漆による新しい漆利用の可能性を提示します。



- 主催 明治大学博物館
- 共同企画 明治大学バイオ資源化学研究所 明治大学日本先史文化研究所
- 会期 2011年6月18日(土)～7月31日(日) 開館時間 10:00～17:00 会期中無休
- 会場 明治大学博物館特別展示室(駿河台キャンパス・アカデミーコモン地下1階)
- 入場料 ¥300 明治大学学生・教職員、高校生以下の児童・生徒及び引率教諭、明治大学博物館友の会会員、明治大学リバティアカデミー会員、明大カード会員、身体障害者手帳・愛の手帳所持者とその介助者は無料
- 問合せ先 明治大学博物館事務室 03-3296-4448 <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

2010 年度特別展「王の埴輪—玉里舟塚古墳の埴輪群—」を開催

博物館ニュース

10月9日(土)~12月12日(日)の65日間にわたり、茨城県小美玉(おみたま)市の玉里舟塚古墳出土埴輪をテーマとした本年度の博物館特別展が開催されました。展示資料は明治大学博物館・茨城県立歴史館が所蔵する円筒埴輪・形象埴輪群約80点を中心に周辺地域の同時期埴輪や伝玉里舟塚古墳副葬品など約350点にのぼり、関東屈指とされる埴輪群像の全容を明らかにしました。なかでも1mを越える巨大な円筒埴輪が20本以上立ち並んだ当時の埴輪配列を再現したゾーンは、今回初公開となる横座り方式の乗馬を示す馬形埴輪とともに高い関心を呼んでいました。地元の茨城県のほか各地から多くの方々が来場し、入場者は特別展として過去最多の6256名を数えました。



馬形埴輪と円筒埴輪群

ミュージアムショップ“M2”に新グッズ登場!! クリアファイル(山形土偶・円筒埴輪)各200円

博物館ニュース

昨年12月よりM2グッズのクリアファイルに新しいデザインが加わりました。山形土偶をキャラクターにしたものと円筒埴輪の2種類です。山形土偶は、土偶が遊んでいる姿をお茶日に描いたカラフルで明るいデザインとなっており、新学期を迎えるお子さんにオススメです。円筒埴輪は、茨城県に位置する舟塚古墳の巨大な円筒埴輪をクリアファイル全面に配置し、特別展「王の埴輪」を彷彿とさせる臨場感あふれる1枚となっています。また円筒埴輪の裏面には、右側の鞍に足を置く板が付いた横座り式の馬形埴輪をあしらっています。A4サイズでたまった書類もスッキリ収納でき、勉強に、仕事に、活躍すること間違いなし! ちょっとしたプレゼントにも最適な一品です。



山形土偶(左:裏 右:表)



円筒埴輪(左:表 右:裏)

来館者40万人突破!

博物館ニュース

2004年のリニューアルオープン以来、明治大学博物館にいらしゃったお客様の数が昨年12月に累計40万人を突破しました。これまで当館に足を運んでいただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

なお、これまでの記録をたどってみると…

達成記録	達成日	記録達成までの期間
来館者10万人	2006年 5月	2004年4月のリニューアルオープンから2年1ヶ月
来館者20万人	2008年 4月	10万人達成から1年11ヶ月
来館者30万人	2009年 9月	20万人達成から1年5ヶ月
来館者40万人	2010年12月	30万人達成から1年3ヶ月
来館者50万人	??	??

次の10万人に達するまでのペースがだんだんと上がってきています。新聞やテレビ番組など各種メディアで紹介されたことにより、当館の知名度も上がってきているのかもしれません。

はたして50万人目のお客様がいらっしゃるのいつになるのでしょうか…。その日を心待ちにしながら、スタッフ一同頑張っていきたいと思います。

企画展

『古瓦を追って—前場幸治瓦コレクション—』

鈴木 知子 (明治大学古代学研究所)

開催の経緯

2010年7月30日～9月12日、明治大学博物館特別展示室において、企画展『古瓦を追って—前場幸治瓦コレクション—』が開催された。主催は明治大学博物館と明治大学古代学研究所である。前場幸治瓦コレクションは、神奈川県厚木市で工務店の会長をされている前場幸治氏が、約40年に渡って収集した考古資料である。前場氏は考古資料を収集するだけでなく、数々の著書も執筆され研究者としての実績も高い。

2010年2月に前場幸治氏よりこれらの考古資料約5400点、関連書籍約1100冊が明治大学に寄贈された。寄贈された資料は瓦が大半を占めており、他にも石器や土器、瓦製作道具など多岐に渡る興味深い資料が含まれている。

今回の企画展は、寄贈について内外に周知することを目的として、コレクションの大半を占める瓦を中心に、代表的な資

料を取り上げ展示したものであった。

展示の概要

当コレクションは全時代に渡る豊富な内容であることから、瓦の歴史を時代の流れを追って展示することが可能であった。

白鳳期では、宮殿としては初めて瓦が葺かれた藤原宮の軒先瓦を展示したほか、この時期の畿内の文様が地方に影響を与えた様子が分るよう、近畿周辺の瓦と東国の瓦を並べて見られるようにした。奈良時代では平城宮や京内の大寺院で用いられた特徴的な瓦を展示した。

次の平安時代になると、平安京内の寺などに地方で生産された瓦が持ち込まれるようになるが、播磨産や讃岐産、丹波産など様々な産地の瓦を並べることができた。

中世では巴文軒丸瓦などを中心に展示した。それまでの軒丸瓦の文様は蓮華文が多いが、平安時代から始まった巴文がこの頃から主流となり、のちに「巴瓦」

といえば軒丸瓦の代名詞となっていく。織豊期・江戸期では城郭で使われた家紋瓦が特徴的で、大坂城の桐文の金箔瓦は文様面がよく残る貴重な資料であった。また、石垣山一夜城と小田原城の一括資料も当コレクションの特筆されるところである。

江戸期には棧瓦(さんがわら)が生まれ瓦の歴史上大きな画期となる。それまでは、平瓦と丸瓦が別になっていたものを、現在の瓦のように一枚につなげ簡略化させたため、瓦が一般に普及するきっかけとなった。

文明開化以降では、フランス人ジェラルールが、日本で初めて製造販売したフランス瓦のジェラルール瓦も興味深い資料であった。ジェラルール瓦は屋根への葺き方も、千鳥に葺くもので、それまでの日本の瓦とは異なっていた。

時代順とは別に中国・朝鮮、各地の国分寺、文字瓦、鬼瓦については別に



会場風景



金箔瓦

コーナーを設けた。中国・朝鮮で展示した「元延元年」は中国前漢の「大晋元康」は楽浪の極めて古い資料である。

国分寺の瓦は全国で収集された多くの資料がある中、スペースの都合上限られた数の展示となったが、常陸国分寺や出雲国分寺などの軒先瓦を並べた。また文字瓦のなかにも東国を中心とした国分寺の出土品が多く含まれている。特に武蔵国分寺と下野国分寺では郡名を記した瓦が多量に出土することで有名だが、それらの文字は郡単位での造瓦費用の負担を表すと理解されている。

当コレクションでは鬼瓦の豊富さも特徴のひとつである。その膨大な数の鬼瓦の中から代表的なものを選んでの展示となった。九州大宰府系の鬼瓦は白鳳～奈良時代の古式の資料であり、ほかに「文化三年」銘の鬼瓦なども展示した。また、展示室中央に設置した神奈川県金沢文庫の巨大な鬼瓦は、圧倒的な存在感を見せていた。

「大伴五十戸」銘瓦

前場幸治氏の研究成果のコーナーには前場氏が研究に力を注がれた小田原市千代廃寺の資料をまとめ、話題となった「大伴五十戸」銘軒丸瓦や、小田原市より借用した鬼瓦・文字瓦などを展示した。また千代廃寺の瓦と共通点が多い、静岡県富士市の三日市廃寺の軒丸瓦も借用し、比較して見られるようにした。

「大伴五十戸」の文字は、蓮華文軒丸瓦の文様面の側面に極めて細い線で書かれており、これまで読み取るのが難しかったが、2008年に市川考古博物館の山路直充氏により判読されたことで、一気に注目が集まることになった。

五十戸の文字は飛鳥京の木簡などにはみられるが、瓦に書かれる例は極めて稀である。



鬼瓦

五十戸は「サト」と読み、7世紀後半の地域支配の単位である。701年の大宝律令では、人々を「戸(こ)」に編成し⁽¹⁾、五〇の戸をあわせて一里を形成していた。この里に先行するのが五十戸であり、もとはそのまま「五十戸」と表記していたものが、683年頃から「里」⁽²⁾表記に変化していく。

ただし、万葉集などにも五十戸と記す例はあり、8世紀代も五十戸表記は使われたようである。大伴五十戸が書かれた瓦の年代は、窯跡での状況から7世紀末～8世紀初頭⁽³⁾まで下がる可能性があるのも、里の時代に五十戸表記をしていることも考えられる。

いずれにせよ、千代廃寺建設のころ「大伴五十戸」という集団が存在し、五十戸を単位に寺院建設に関与したことは想定できる。また、千代廃寺北西に現在ある「東大友・西大友」の地名との関わりも指摘されており、このあたりに居住していた集団なのかも知れない。このほか、静岡県三日市廃寺の瓦と軒先瓦の文様が似ることも興味深い事実である。

このように大伴五十戸の文字瓦は、律令制前後の地方支配の実態や、寺院建設に際しての費用負担、瓦生産体制のあり方など、各方面の研究の手がかりとなることが期待される資料なのである。

企画展の成果

開催期間中は多くのお客様が来館され、熱心に見学する様子が見られた。来館者アンケートには「個人の収集とは思えない内容」「巨大な鬼瓦など引き込まれ

た」「調査中の物が早く見たい」といった感想が寄せられた。個人の収集した資料だけで、瓦全般に渡る企画展が成立していることに驚かれた方も多いただろう。ご意見の中には「キャプションに漢字が連なり一般には分りにくい」とのご指摘もあり、反省すべきところであった。

今回の企画展では、明治大学に貴重な資料が寄贈されたことを紹介すると同時に、瓦に対し多くの方に興味を持っていただくことができ、よい成果となった。

当コレクションの整理は現在進行中である。思い入れのある資料を手放された前場幸治氏のお気持ちや、未発表資料の公開を待つ方々の期待に応えるためにも、今後詳細な調査を進め、広く活用できるようにしていかなければならない。

- (1) 「戸」は現在の一家族がいくつか集まった程度の人数であった。
- (2) 「里」は715年(または717年)に「郷」に変更される。
- (3) 山路直充 2009 「大伴五十戸」と記名された軒丸瓦『千代寺跡の実像を探る』小田原市教育委員会



大伴五十戸の瓦



大伴五十戸の文字

小塚原の仕置場と志士の墓

亀川 泰照 (荒川区立荒川ふるさと文化館)

観臓記念碑

小塚原の仕置場跡で比較的著名なものを挙げるならば、観臓記念碑だろうか。杉田玄白らがこの場所で腑分け(解剖)を見学して、ターヘルアナトミアの翻訳を決意し「解体新書」を刊行したことを記念して建てられた碑である。回向院(以下、荒川区南千住五丁目の回向院を指す)に現存し、近年地域の人権学習の教材ともなっている。玄白の「蘭学事始」によると、実際に執刀したのは、虎松の祖父である「老屠」と記された被差別民だったからだ。この時、彼は腑分けの技術だけでなく、腑分けを見学していた医者たちよりも人体に関する知識を持っていた。

幕末の腑分けと刀の試し斬り

幕末になると、腑分けは医者の手で行われるようになっていたが、玄白の時代と同様、刑死者の遺体が用いられていた。文久2年(1862)、西洋医学所の頭取を務めた大槻俊斎は、医術研究のためには、年に2,3度腑分けをする必要があり、その時には、刑死者の遺体を西洋医

学所に運び入れるようにしてほしいと町奉行所に願い出た。これに対し、町奉行所は牢屋奉行石出帯刀に意見を求めたところ、①將軍の刀の試し斬りの稽古に用いる遺体が不足しては差し障りがあり、また②刑死者の身寄りの者に遺体が渡り、埋葬・供養されてしまう恐れもある、との回答を得ている。①は、試し斬りには、腑分けの場合と同じく、死罪の刑死者の遺体を用いて行われていたため懸念されたのであろうが、②はどういう意味だろう？

刑死者=無縁という論理

実はこの当時、刑死者は法的に“無縁”とされた。法的に、というのは、実際“無縁”である場合は少ないから、これを現実にするために、縁者が供養できないこととして、その状態が作り出されたのである。

けれども、我々は、回向院に幕末の志士の墓があることを知っている。矛盾してないのだろうか？そこには、2つの理由を想定することができる。

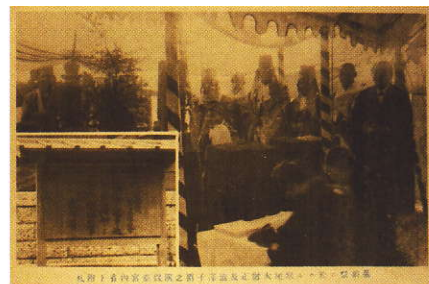
志士の墓

第一に、法的に“無縁”とされようとも、死者を供養したいというのが縁者の心情であり、縁者は小伝馬町の牢屋敷から仕置場へ遺体を運ぶ人足や、仕置場内で行われた腑分けを見学する医者に頼んだりして遺体の一部を手に入れようとした。無論、違法であり、相応の金銭を要求されたい。勿論、町奉行所にとっては、自分たちの目の届かないところでこのような事態が進行しては、法の大前提を揺るがす、ゆゆしき問題であった。ただ、縁者の心情については、町奉行所も認めるところでもあり、そこでとられていた措置が、表向き無縁供養の寺院である回向院が供養するという形をとりながら、実質、縁者は回向院に墓を持ち、同院で供養するという方法だった。幕末の志士も、その時点では刑死者であり、彼らの墓はこの枠組みの中で建てられたものに他ならない。

そもそも小塚原の仕置場は、火罪(火あぶり)、磔、獄門などの刑罰を執行する場所であるとともに、刑死者の埋葬地



現在の観臓記念碑



絵葉書「墓前祭ニ於ケル堀尾大僧正及渋沢子爵之演説並宮内省下附札」(「小塚原回向院殉難烈士遺跡絵葉書」の内) 荒川ふるさと文化館所蔵



現在の回向院境内史跡エリア

玉里舟塚古墳出土 馬形埴輪の評価

忽那 敬三 (考古部門学芸員)

1. 玉里舟塚古墳の馬形埴輪

2010年秋に開催された明治大学博物館特別展「王の埴輪-玉里舟塚古墳の埴輪群-」は、1960年代後半に調査された茨城県小美玉市に所在する玉里舟塚古墳出土の埴輪群について、近年明治大学博物館が再整理した資料を加え、主要な埴輪を一同に集めその全容に迫ったものであった。その結果、力士埴輪や高床式の家形埴輪の存在など、埴輪群がこれまで知られていた以上に豊富な種類で構成されていたことや、継体大王の墓とされる大阪府高槻市の今城塚古墳や同時期の各地の有力古墳と類似した埴輪群の構成をとることが明らかとなった。なかでも、馬形埴輪は以前から存在が指摘されながら実態が不明であったが、今回ほぼ完形の個体(1)と胴体部分の個体(2)を復元することができた。また、他にも破片があり少なくとも3個体は存在していたことが判明した。馬形埴輪は形象埴輪の中でも普遍的に見られるもので、他の古墳の埴輪群との比較の上で重要である。以下では、破片資料を加えたうえで玉里舟塚古墳の馬形埴輪の全体像と、その評価について検討する。

2. 馬形埴輪の概要

ほぼ完形の個体1、胴部1とその他破片資料である。1は高さ107cm、全長118cmで鞍・馬具表現がある飾り馬であ

る。鞍は前輪・後輪の縁に鋌が付き、右側の障泥には横座り用の短冊形水平板があり、左側の障泥には壺鐙が表現される。前脚・後脚の付け根には舌のある馬鐸がそれぞれ1ずつの計4、尻繫には剣菱形杏葉が2あり、雲珠は欠くが状況から胸と同じ鈴がついていた可能性がある。馬鐸の表面は綾杉文、鈴は十字の線刻を施す。轡の鏡板はf字を志向しているが、かなり退化している。杏葉、障泥、鏡板をはじめとする馬具は方形の刺突で縁取りされ、鋌やその他加工を表現するなど、全体に丁寧に装飾されている。頭の馬具同士をつなげる紐や、障泥、鏡板には灰色の彩色が残る。また、頭部は頸から頸にかけての部分が開いており、腹部も下方向に楕円形の大きな穴が開くことから、焼成効率を重視していたことがうかがえる。なお、粘土紐を巻き上げて成形している脚の底部は足首の表現ではなく単純な円筒形で、底面にナデを施し丁寧に仕上げている。

2は表現がより簡素である。鞍の前輪・後輪の縁には鋌表現がなく、障泥は灰色の塗彩がみられ短冊形水平板の痕跡もあるが、完形の個体が複列の刺突で縁取りするのに対し、こちらは単列の円形(竹管状の工具)の刺突である。また、馬鐸、雲珠(鈴?が剥離)、胸の鈴という構成は完形のものとも共通するが、馬鐸の表面は縦方向の沈線を平行に3本入れるのみで、胸の鈴も横方向に一線引くだけである。尻繫は素環状の杏葉となっていて、1に比べ装飾を簡略化している。2も胎土と焼成から同一個体とみられる腹部片があるが、やはり下部は開放型である。この個体も飾り馬であり、現存の大きさは高さ60cm、長さ66cmであるが、本来は1と遜色ない大きさであったと考えられる。尻部は尾に至る屈曲部まで残存している。

破片資料は、頭部片2・障泥片1・鞍片1・尻部片1・その他、尾・脚・耳・胴部小片多数である。障泥片は表面を灰



1. 完形の馬形埴輪(1)



2. 胴部が復元できた馬形埴輪(2)



3. 特別展後に接合した2の馬鐸部分



4. 障泥と鞍片



5. 尻部片



6. 頭部片(A)



7. 頭部片(B)

色に塗彩し、単列の円形刺突で縁取りするもので2には接合しないことから、さらにもう1個体飾り馬が存在したことを示す。

また、尻部片は折損した尾の根元と尾直下のスカシ穴までの破片で、こちらも3個体目の存在を確実にしている。頭部片は眼から耳に至る部分(A)と、轡及び周辺の部分(B)がある。焼成・胎土とも異なるため、別個体の可能性が高い。Aは1とほぼ同大である。いずれの個体も円形の辻金具が表現されるが、1の辻金具が径約4cmであるのに対しいずれも径3cm弱で、また刺突の縁取り表現もない。Bには双円形を呈する鏡板がつき、円形刺突で縁取りをして内側にヘラで大きく「×」を描く特殊な表現である。鞍片は前輪か後輪かは不明だが、鐙または短冊形水平板を吊り下げるベルトと障泥とが交わる部分に複列以上の円形刺突がある。1以外にも、複列以上の列点で障泥を飾る馬がもう1個体存在したのかもしれない。

3. 構成と配置場所の復元

では、破片資料も含めて馬形埴輪の構成を考えてみよう。まず個体数であるが、1以外には2とさらに別個体の障泥片と尻部片があり、飾り馬が3個体存在したことが確実である。戦時中に騎馬人物像が出土したとも伝わっているが(大塚・

小林 1971)、関係する破片は確認できなかった。ただし、ひとまわり小さい動物埴輪の腹部分と思われる破片が2種あり、他の動物埴輪かあるいは小型の馬形埴輪が存在した可能性は残されている。存在が確実な3個体の構成は、全てが飾り馬で大きさもほぼ同じである。また、全国的にも珍しい短冊形水平板も複数の個体に付けられている。ただし表現には明確な差があり、1に最も丁寧な装飾を施し、他2体は簡略化していることから、やはり1が中心的な存在であるといえる。

玉里舟塚古墳では形象埴輪は全て墳丘から滑り落ちた状態で検出されているため配置場所は破片の出土位置から推測するしかないが、破片も含めた馬形埴輪の出土は前方部西側に集中しており、造り出しから前方部への接続部付近に1、続いて前方部端側に2、そしてさらに前方部端寄りに少なくとも1体という並びとなる。頭がどちら向きであったかの判断は難しいが、短冊形水平板の造作が丁寧で、なおかつ横座りした際の正面を考えれば水平板がついている右側が周溝外側を向き、尾が後円部、頭が前方部方向という配置が妥当かと思われる。馬形埴輪のうち最も豪華に飾られた1が、玉里舟塚古墳における埴輪配列の中心であった造り出しに最も近い位置に置かれていたこと

は、偶然ではないだろう。馬形埴輪も人物埴輪と同じく祭祀のメインステージを意識して配列されていたのである。

4. 特徴と評価

では、関東及び他地域の馬形埴輪と比較した場合、どのような評価が可能であろうか。製作技法の面では、側面にスカシ穴を設けず、胸と尻に小穴を開ける東日本に多いタイプである。また、タテガミの断面がT字状を呈さない、高さに比べ全長が長くないなどの点も、西日本とは異なる。概ね東日本的な特徴をもちつつ、短冊形水平板をつけ、f字形鏡板と剣菱形杏葉という希少な組み合わせをもつというオリジナリティも併せ持っている。注目すべきは馬装表現の格差がある点で、最も丁寧に表現されている1は祭祀の中心人物に対応していたと見てもよいのではないだろうか。玉里舟塚古墳の形象埴輪配列は未解明の部分が多いが、馬形埴輪そのあり方や性格を探る上で重要な手がかりとなる可能性があるといえるだろう。

参考文献

井上裕一 1995「馬形埴輪の研究-画期の設定-」『古代探叢Ⅳ』滝口宏先生追悼考古学論集編集委員会ほか編
大塚初重・小林三郎 1971「舟塚古墳Ⅱ」『考古学集刊』4-4東京考古学会

2011年、明治大学は創立130周年を迎えました。創立記念行事として様々な記念事業が予定されています。明治大学は創立80周年の記念事業の一環として1960年3月、明治大学アラスカ学術調査団を結成・派遣しました。調査団は団長渡辺操を班長とした地理班、杉原荘介を班長とした考古学班、そして岡正雄を班長とした民族班で構成され、地理・考古・民族の三分野にわたる極地の自然・社会・文化・人間の研究およびアラスカの最高峰マッキンレー山脈に厳寒期初登頂を試みるべく日本を出発しました。

調査団が向かったアラスカはアメリカ大陸の西北端に位置し、東側がカナダ国境に接しているほか、南は太平洋、北は北極海、西はベーリング海と海に囲まれています。日本全土の約4倍という広大な土地を有する、アメリカ合衆国第49州目の極寒の地です。

当時、調査団の一行にマツキンレー登山隊（山岳班）、報道班として読売新聞社・日本テレビの社員や記録映画班として東映の撮影技師が同行しました。日本テレビが製作した山岳班行動記録『第三の極地マツキンレー』は8月20日、学術班の行動記録『アラスカの顔』は9月10日にそれぞれ全国放送され、東映株式会社は学術調査団長編記録映画『マツキンレー征服』を製作し、同年9月20日より一般公開されました。また、アラスカ学術調査団の報告展覧会や学術講演会は「第3の極地アラスカ展」と称され東京、大阪、名古屋、福岡など8月から11月まで明治大学図書館および全国6カ所の百貨店や記念会館を巡回しました。

それでは考古学班の資料について詳しく見ていきましょう。発掘調査の地点として選んだホットスプリング貝塚はアラスカ半島のほぼ中央部、アンカレッジから700kmの距離にあるポートモーラー湾の奥にあります。この貝塚はアラスカエスキモーの残した最も古

い遺跡の一つと考えられており、紀元前1000年頃だと言われています。この貝塚は高地と低地の両部分にわたって400mもの広さに作られており、ここに長さ52m、幅2mのトレンチを設定して発掘を行い、その発掘品をもとに新事実を明らかにする調査方法をとりました。発掘調査の成果は人骨4体、据付粘土容器4点、石器250点、骨角器350点でした。据付粘土容器は今回の調査で発見されたものであり、地面を掘りくぼめた中になまの粘土を固めて作った奇妙な容器であったため、この名前が付けられました。石器の中には狩猟用の槍頭や茎のついた石鏃、また骨角器の中には日用道具であった釣針や銚、その他にも口唇装具や鼻飾り、環状の耳飾りなどの装身具も発掘・採取されました。銚は海獣を捕えるために使われたものや、鳥などを捕まえるのに使われた投げ槍の先端などが発掘され、それぞれに捕らえた獲物から抜けないように逆刺が施されていました。また、装身具の中にはラブレットというものがあり、これはエスキモー及びアリュートに特徴的な口に孔をあけてつける口唇装具です。鼻飾りには頭の部分に精巧な彫刻が施されています。杉原荘介は総括として「この大きな貝塚においても土器は一片も発見されず、そのかわり地面を掘って粘土を貼りいれ物とする据付粘土容器を4個所も発見、土器使用以前の民族がどのようにして容器の問題を解決していたかを明らかにしたことは収穫であった。」と報告書の中で述べています。

調査団がアラスカへ渡ってから50年の月日が流れました。これから学術調査団が持ち帰った資料はアラスカの自然や社会、文化などを日本へ広めた資料として非常に重要だと言えます。

(甲斐 由香里)

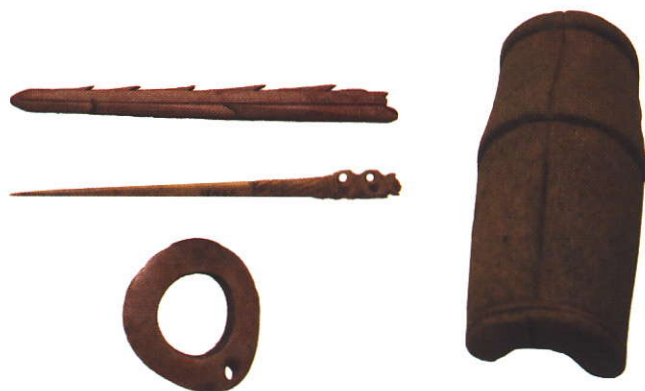
参考文献

渡辺操・岡正雄・杉原荘介『アラスカ 明治大学アラスカ学術調査団』古今書院 1961

『創立80周年記念アラスカ学術調査団報告書』アラスカ学術調査企画委員会



発見された据付粘土容器



左上：鳥用の銚 左中央：髪飾り
左下：装身具 右：ソケット

目で見て楽しむ 江戸の洒落っ気

拡大された足・手・口・目・耳・鼻が人の頭になっています。「足」の人は灸をすえ、一番右にいる「鼻」の人(袖に「鼻」印が付いています)は何かを手に持ち、首(鼻)をかしています。シュールな表現が目を引きますが、いったい何を表わした絵なのでしょう。

実はこれは当時の健康観を茶化したものなのです。顔は親、手足は兄弟、腹は親類と、五体を親族にたとえ、五体の調和が健康の秘訣であると説かれていました。それがなければどうなるか、ここに一つ話をいたしましょう、というプロットなのです。

絵の上半分を占める文は「目の曰」「口の曰」とそれぞれの部位のせりふで、各々の役割や機能の重要性を主張しています。なにやら喧嘩腰なのですが、以下に抜き書きしてみます。※なお、読みやすくなるため、適宜句読点を打ち、漢字に変換してふりがなを付け、旧仮名遣いを改め文体を変えています。「」も筆者によります

* *

目の曰「コウみんなの前で言つちやア目に角立って目病みにみそをあげるやのだが、およそ体の内においらほど重宝なものはありませんやすめへ」「おいらがなぐば一切万物おも白いこともおもしろい」

口の曰「もし皆さん憚りながら御慮外⁽¹⁾ながらわちきの言うことを静かにしてお聞きなはい。やぼなやつたたとえに「口は禍の門」「舌は禍の根」だとか葉だとかぬかしたのは、ホンノ岡持ち焼きの甚助」の言うことだとし、「わたしがなぐば。ハイ、命をつなぐことはできません。うまいまづい五味の味、酸いも甘いもかみわけて、もつれたことをさばくも口サ」

耳の曰「皆さんのお話をいちいち聞きわけてみましたが、それはいわゆる水かけ論サ。もろこしの老子とかいう変人が言ったには「大声里耳にいらす」トサ。しかしね雅俗共に善は「ぜん」悪は「あく」と聞きわけるがわちの役サ」

鼻の曰「甚だ失礼な申分でございますが(中略)自慢は私の持ち前だが、まんざら耳を取って鼻へつけたるような御託はあげやせん。しかし私がなけりやア柴舟・蘭奢待・伽羅や麝香を嗅ぎ分ける理屈にやア参りやせん」とお香を聞くことができるのは、鼻だけであり、まねることはできないだろう、と述べています。

最後に**足の曰**「目の寄る所へ玉でも寄るかと思つたら、口広いしゃべりだて。耳やかましくって鼻持ちがならねへ」と啖呵を切り「見聞きも嗅ぐも味わうもこの足なくては適うまじ」と述べ「まだまだたくさん言うことあり。コレヤイ。目玉汝逆上⁽²⁾でわずらう時、三里⁽³⁾にと足へ灸は何事ぞ。口めが飲酒酔狂の



しんかくみのえうちん 心学身之要慎 文・仮名垣魯文 画・落合芳幾 江戸時代後期 各36.4cm×24.3cm 「時田コレクション」から

おびく 傘灸の苦しみはいかばかりと思いやれ。その上、目玉がぐらつくゆえ、足の我らはどぶへはまり、または昼中犬のくそを踏む時は己がそそうを知りおらず足の穢れを数え立てヤレきたねへのどうだのと他人のようにぬかしおる」と責め立てています。

足の文句を受け、目口耳鼻を合わせ持つ「顔」は「真赤に面目なげに聞き耳つぶし鼻の頭に汗たらだら一句もいはず。閉口閉口」と話を締めくくります。

* *

それにしても、ふんだんに掛詞やことわざが使われ、楽しい文です。

再び、絵を見ると、その描かれ方に遊び心があふれていることに気付かされます。足たちの着物の文様に注目してみると、足は「寛永通宝」の銭文様。お金のことを「お足」と言いますよね。口は車(口車)。耳は菊(聞く)の五つ紋。鼻は獅子鼻の紋。手は、石はさみのモチーフとすれば、四角い断片は紙で、グー・チョキ・パーのじゃんけんとかけているようです。

一見理解しかねる江戸時代の絵ですが、じっくり見ることで当時の人々の関心事や豊かな言語感覚をうかがい知ることができるのです。

- (1) 恐縮
- (2) 眼の赤く充血する病気
- (3) 灸穴の一。手と足にある。足の三里は膝頭の下で外側の少しくぼんだ所

参考文献

- 『江戸に学ぶ からだと養生』内藤記念くすり博物館 2009
- 『ヴィジュアル百科 江戸事情 第1巻 生活編』雄山閣出版 1991

(小川 祐貴子)

第2回学術シンポジウム開催

第2回シンポジウムが1月8日(土)に南山大学名古屋キャンパスを会場に開催されました。第1回のテーマを継承し、「暗黙の」、しかも「検証されていない」前提に基づく従来型「博物館資料」の概念に対する問題提起をおこないました。「文化」に関する権利の問題、従来は博物館資料の枠組みから外されていた資料群への注目、あるいは逸脱する展示とその政治性の問題などを取り上げました。



会場風景

《プログラム》

基調講演:「文化」は誰のものか

南山大学外国語学部教授 加藤隆浩

藩政史料と歴史研究—旧藩主家史料の再評価—

明治大学文学部教授 落合弘樹

昭和時代の生活資料

南山大学人文学部准教授 黒沢浩

瀬戸赤津焼の「伝統」への再評価

明治大学博物館学芸員 外山徹

展示される人間—学術人類館をめくって

南山大学人文学部准教授 松田京子

加藤報告は、インカの空中都市として知られるマチュ・ピチュ遺跡から発掘された遺物が学術資料としてアメリカのエール大学に収蔵された後、文化遺産としてペルーへ返還される問題を扱いました。落合報告では、大名家が多くの地方博物館の展示に取り上げられ、城ブームなどの現象がある反面、藩主家の近代史料は等閑視されてきたことを指摘、旧藩主が地域社会で果たしていた役割などへの着目が提起されています。黒沢報告は、昭和の電化製品等を博物館資料として扱う意味について検証しました。既存の研究領域における研究的価値の不明確という問題、昭和の資料は「歴史」ではなく「記憶」の領域にあり、記憶を収集・展示する意味を持っていることなどが提示されています。外山報告は、現在、瀬戸赤津焼の主力商品となっている「織部」「黄瀬戸」が、桃山期に美濃で焼かれていたという考古学上の知見が評価される一方、18世紀末に瀬戸赤津村等で再興されたそれ以来の歴史が評価されていない問題を取り上げました。松田報告では、近代の博覧会における異人種の標本としての生身の人間の展示が、決して好奇的な見世物ではなく学術研究を目的としていたものの、それに対する批判・抗議が発生した状況、展示することについての人種的偏見の問題も含めた倫理性の問題を取り上げました。

討論では、それを博物館資料として価値付けるか否かについて3つの境界性が提起されています。すなわち、既存の研究分野に位置付かない研究領域の境界、時日の経過とともに捉え返されねばならない伝統・歴史の境界、そして文化財所有や個人の人權の尊重など倫理性の境界です。そして、これらの境界性を踏まえながら、博物館の機能を、社会に対し果たすべき役割を考慮しつつ再構築する必要性がアピールされました。



討論



博物館併設の図書室に関することを紹介する“図書室から”第四弾。
今回は図書室の利用方法についてご紹介させていただきます。



明治大学博物館の図書室は、明治大学の関係者だけではなく、どなたでも利用していただくことができます。

①入室する際の手続き

- ・筆記用具、ノート以外のお荷物(バッグ、携帯電話、飲食物等)は、コインロッカーに入れて下さい
- ・受付にて「図書室利用申込書」を記入した後、入館証を見えるところにつけてご利用下さい

②複写する際の手続き

- ・図書室内のコピー機で複写した後「文献複写申込書」を記入し、回収箱の中に投函して下さい

③資料の利用について

- ・利用後はご自身で元の場所に返却して下さい(資料の貸出等は行っておりません)

④退出する際の手続き

- ・受付にて入館証を返却し、退出時間を記入して下さい

「博物館の展示についてもう少し知りたい」、「他にはどんなものがあるのか調べてみたい」そんなときは、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。

開室時間: 平日・土曜 10:00~16:30 (日曜祝日、夏季一斉休業期間、冬季休暇期間を除く)

明治大学博物館入館者数の動き (2010年7月~12月:延べ人数)



2004年4月以降の総入館者数累計 402,932人

特別展来場者内訳		開催日数	来館者数
7/30 ~ 9/12	前場幸治瓦コレクション	38日間	4003
10/9 ~ 12/12	王の埴輪 —玉里舟塚古墳の埴輪群—	65日間	6256



「王の埴輪」展 内覧会

7月~12月	来館者数
図書室利用者	3166
講座受講者	997

団体見学の記録 2010年7月~12月

【一般】

神奈川県横須賀市立横須賀総合高等学校PTA(45名)・所沢市民大学OB会(50名)・埼玉県立豊岡高等学校PTA(55名)・みのり会(30名)・好日会(20名)・7考会(15名)・よみうり・日本テレビ文化センター荻窪(8名)・中野区手話サークルだるま会(15名)・武蔵野市酒蔵めぐり愛好会(30名)・水曜体操クラブ(20名)・所沢市高齢者大学28期(30名)・長野県赤穂高等学校PTA(60名)・江戸東京再発見コンソーシアム(20名)・おもしろ美術館めぐり(25名)・千葉県立東金高等学校PTA(45名)・浦和学園 あゆみ会(15名)・日本・ベトナム大学長懇談会 ベトナム側出席者一行(11名)・千葉県立船橋豊富高等学校PTA研修会(25名)・東京都歴史教育者協議会(18名)・小美玉市玉里史料館(28名)・出版OB会(35名)・いろいろの会(8名)・明垂会34年卒同期会(7名)・北多摩東地区保護司会三鷹分区(30名)・かながわ考古学同好会(12名)・東京シティガイドクラブ(15名)・ウォーキングクラブ長月会(10名)

【小・中学校】

志学館中等部 地理・歴史倶楽部(4名)・明治学院中学校(48名)・東京成徳大学中学校 3年生(17名)・桐朋女子中学校 第3学年(52名)・専修大学松戸中学校 3年生(30名)・道志村中学校(74名)

【高等学校】

東京都立篠崎高等学校 2年生(63名)・千葉県立国分高等学校 2年生(30名)・山村国際高等学校 1・2年生(44名)・神奈川県立七里ガ浜高等学校 2年生(50名)・神奈川県立住吉高等学校 2年生(43名)・福島県喜多方東高等学校(8名)・静岡サレジオ中学・高等学校(13名)・横須賀学院高等学校(16名)・北海道函館中部高等学校(22名)・栄光学園高等学校(180名)・北海道札幌稲雲高等学校 2年生(37名)・東金高等学校 1年生(40名)・国際学院高等学校 1年生(37名)・広島県立府中高等学校 2年生(17名)・埼玉県さいたま市立浦和南高等学校 1年生(42名)・群馬県立太田東高等学校 1年生(42名)・埼玉県立朝霞高等学校 1年生(40名)・茨城県立鹿島高等学校 1年生(40名)・高知学芸高等学校 2年生(46名)・長野県上田染谷丘高等学校 1年生(41名)・ソロモン諸島・クック諸島高校生(16名)・群馬県立藤岡中央高等学校 1年生(42名)・文華女子高等学校 1年生(30名)・明治大学付属中野高等学校(413名)・市立函館高等学校 2年生(50名)・茨城県立鉾田第一高等学校 1年生(50名)・文化女子大学附属杉並高等学校(25名)・千葉県立長狭高等学校 1年生(36名)・長野県丸子修学館高等学校 2年生(40名)・神奈川県立秦野総合高等学校 2年生(34名)・富山県立石動高等学校 2年生(18名)・中京高等学校 2年生(41名)・東京都市大学等々力中学校高等学校 1年生(40名)・新潟県柏崎常盤高等学校 2年生(90名)・明星高等学校 1年生(51名)・福岡県福岡市立福岡高等学校 2年生(40名)・東京都立鷺宮高等学校(100名)

【大学・大学院・専門学校】

中国 深圳大学学生訪問団(20名)・和光大学附属梅根記念図書・情報館(23名)・モスクワ大学関係者一行(34名)・福岡大学法学部(18名)・神戸学院大学(16名)・高知大学・茨城大学 刑法ゼミ(22名)・学校法人大原学園 大原日本語学院(9名)・同志社大学 新井ゼミ(24名)・明治大学経営学部 公共マーケティング論受講生(60名)・帝京大学法学部(15名)

M2 カタログ

ミュージアムショップ「M2」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。第15弾となりました今回はTシャツをご紹介します!

これからの時期に重宝すること間違いなし! 明大博物館カラーを前面に押し出したデザインTシャツが赤・白三種で販売中!

赤はM・Lサイズ、デザインは刑事部門からアイアンメイデン。白はフリーサイズで土器と十手の2タイプ、展示室で見た十手と土器がふんだんに盛り込まれたデザインとなっています。お気軽にサンプルを手にとりいただき、サイズをお確かめになってからお買い求め下さい。

☆ポストカード売り上げTOP3 (2010年8月~2011年1月) ☆

1位 大塚初重 3分スケッチシリーズ 4種

2位 ニュルンベルクの鉄の処女(アイアン・メイデン)

3位 ギロチン

大塚先生の3分スケッチシリーズがダントツの1位! てるか、第2弾!?



工芸の会一漆工芸「乾漆」に挑む



工芸の会会員辻村保夫さんの作品が日本漆工協会「漆の美展」で日本特用林産振興会会長賞を受賞されました。

製作には1年以上費

やされ、その間のご努力と作る難しさをしたため戴きました。

定年退職後独学で漆工芸を初めて22年。手順は覚えましたがその不思議な難しさ、美しさを体験してきているところです。漆は天然の樹液で生きているものですから当然でしょう。漆工芸は多岐に渡る技法や細心の注意が必要な工程の繰り返し。更に忍耐力が要求されるものです。広がりや深さのある漆の魅力は今後も漆工芸を通じて味わい楽しんでいきたいと思っています。

さて、乾漆とは布と漆を使って作る布製素地をいいます。次の手順がその工程です。

1. 構想を練る

今回の作品は縄文時代の真赤に輝く太陽・赫々と燃える炎を想像し、九角形の盛皿を考えました。角は入隅にし、その両端をしゃくり上げた素地造りとしました。塗漆は表裏の側面を本朱、底面は黒呂色で仕上げます。本朱と黒呂色の接合目はぼかし塗する。

2. 図面を描く

平面図、立体図を描きます。

3. 原形を作る

木芯で原型の骨組みを作ります。薄い板で盛皿上下2枚の輪郭盤を作り、その間へ盛皿の深さの立ち上がり板を輪郭盤の中心

から各角へ放射状に置き、上盤を挟むようにして乗せます。側面の角毎に入隅の局面を厚板で型押し繋いでいきます。側面のうねりを引篋で肉付けし、望みの型に整えます。

4. 形の修正

原型に石膏どりをを行い、できた石膏型を小刀や耐水ペーパー、やすりなどで修正します。

5. 布着せ

①最初に剥離剤を塗り、切粉下地をつけます。

②和紙を糊漆で貼ります。

③麻布を地の粉を加えた糊漆で1枚目は薄手、2枚目以降は厚手を貼る。(和紙・麻布は器胎の大きさや形などにより必要枚数を貼る。)

④薄い和紙を貼る。

⑤切り粉地を付けて布張り充分に乾燥させる。

6. 原型を壊し、本体の裏表を整形する。

7. 高台は麻紐を木屎で輪花型に作り底へ接着させます。

以上で乾漆素地が出来上がりまして、塗り漆の工程に移ります。

(今回は心残りですが、塗漆工程は省略するとのことです。文責：豊島)

【友の会 分科会紹介】

- ・古文書を読む会
- ・弥生文化研究会
- ・石器文化研究会
- ・古文書の基礎を学ぶ会
- ・平成内藤家文書研究会
- ・工芸の会
- ・草生水の会

【明治大学博物館友の会 連絡先】

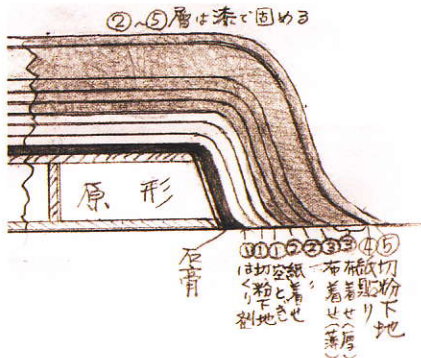
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学博物館 友の会宛

メールアドレス meihakutomonokai@yahoo.co.jp

※博物館事務室に、友の会の担当者は常駐しておりません。

連絡は必ずハガキまたはメールでお願いします。



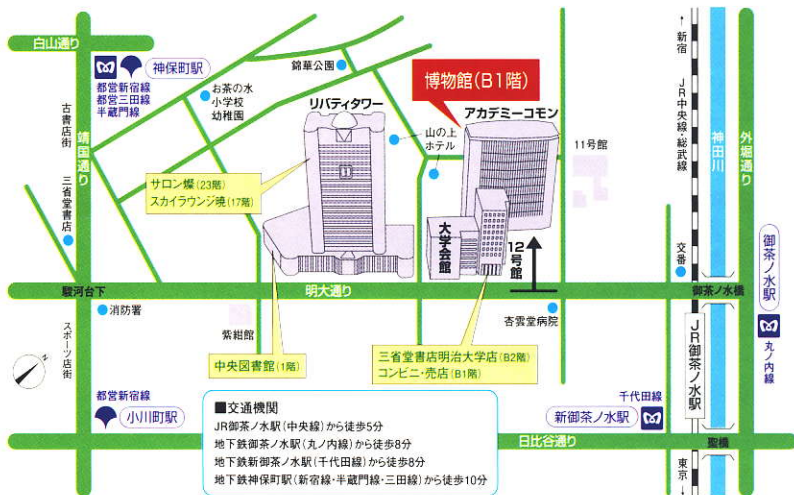
博物館案内

【博物館案内】

- ◆開館時間
10:00~17:00(入館16:30まで)
- ◆休館日
夏季休業日(8/10~8/16)
冬季休業日(12/26~1/7)
8月の土・日に臨時休館があります。
- ◆観覧料
常設展無料。
特別展は有料の場合があります。

【図書室ご利用案内】

- ◆開室時間
月~土 10:00~16:30
- ◆閉室日
日曜・祝日・大学が定める休日
※図書室はどなたでもご利用いただけます。
※蔵書は閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。



編集後記：陽が長くなるのを日に日に感じるこの季節。そして、1月は急ぐ2月は逃げる3月は去るというように、年度末の時間の速度にびっくりします。春は出会いと別れの季節といいますが、この一冊を通じて過ぎ去った時を懐かしむと共に何か新しい出会いが皆様の中に訪れると良いなと思っています。(甲斐)